みんなで

　　新・のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　3　年　7月　16日　　NO.4

洛中洛外図屏風

タイトルの漢字、正確に読めますか。

「らくちゅうらくがいずびょうぶ」と読みます。

インタ－ネットの発達でタブレットに上記の漢字を放り込みますと現物が出てきます。しかも拡大縮小自由自在。

小学校の歴史の勉強では、取り上げられることはありませんが、じっくり観察すると本当に楽しい屏風です。

日本の漫画の原点だと言う専門家もいます。

舞台は洛中。京都です。金閣寺や清水寺といった現在にも残る建築物が描かれていたり、賀茂川や桂川の流れも描写されています。当時の京都の子どもたちの遊ぶ姿や祇園祭の様子なども、黄金の雲の間から覗くことができます。作者は、狩野永徳。作成依頼者は、歴史の超有名人。もらった人も超有名人。

さあ、誰が誰に贈ったか。夏休みを利用して調べてみてください。

先日、谷町五丁目にある「大阪古書会館」へ古本をあさりに行った時のことです。山のように積まれた美術本の中に「狩野永徳展」の図録を見つけたのです。昔、久米田中学校に勤めていた時、中間テストの昼から休暇をいただいて、美術の先生に車を運転させて狩野永徳展の開かれている京都国立博物館へ向かいました。見たかったのは、「洛中洛外図屏風」。本物を目の前にした感動は、忘れられません。当時、美術の先生は五千円近くする図録を購入していましたが、私はケチな根性が出て断念。

その同じ図録が古本になって目の前に。戦国武将も眺めた「洛中洛外図屏風」への思いとともに、展覧会の帰り道、美術の先生の細かな解説も思い出されて、ついに図録を購入したのでした。

と、かっこよく終わるつもりが、先日の夕方雷鳴が轟いた日です。家に帰って自分の部屋に入ると、足元が濡れていました。

恐る恐る床を眺めると大量の雨水。

机の上も椅子もべちゃべちゃ。

　窓を閉めるのを忘れていたのです。

　半べそをかきながら机や床を拭いていると、机上に置かれた狩野永徳展の図録が。毎晩なめるように眺めていたためいつも座右に。指でつついてみるとなぜか雫が。思い切って持ち上げてみると精一杯雨を吸い込んで重たい。

　ページをめくるたびに水滴が指に。

　ああ、せっかく手に入れたのに。

　少し途方にくれています。